

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500114		
法人名	有限会社 良正会		
事業所名	グループホーム 糸田苑		
所在地	〒822-1325 福岡県田川郡糸田町1698番地1	0947-26-4515	
自己評価作成日	平成27年11月14日	評価結果確定日	平成27年12月08日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思を尊重し、安心して楽しい苑生活が送れるよう、日々話し合い意見の交換の努力をし、日々の介護に取り組んでいます。また、毎月の外出やレクリエーションなどもにぎわい利用者様とスタッフがあたたかい家族の様な関係にあると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山脈が陽に美しく映える自然環境に恵まれ、役場や公共施設に近い利便性の良い場所にあり、3ユニットの「糸田苑」は、特別養護老人ホームやデイサービス併設で、相互交流により馴染みの関係が継続され、地域の中で暮らしを支えるグループホームである。4階建てビルの苑内は、白い壁いっぱい手作り作品や、記念写真を掲示し、巧緻性の高い作品作りは利用者のリハビリとなり、さらに利用者職員との協調や達成感を創出することで、温かで楽しい空間と、家族同様の信頼関係を構築している。また、毎月外出や外食支援を行い、職員の手間ひまを惜しまない介護への姿勢は、苑での生活を高め、利用者や家族の満足に繋げている。医療機関の往診と訪問看護の連携で、24時間の医療体制を確立し、利用者や家族とホームの信頼関係が構築されているグループホーム「糸田苑」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年11月27日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を詰所に掲示し、朝礼時に、全員で復唱し、業務に取り組んでいる。	ホームが目指す介護サービスを示した理念を、各階に掲示し、毎日の申し送り時に出勤職員で唱和し、理念の意義を理解している。職員会議や勉強会の中で、理念について話し合い、地域の中で、利用者がその人らしい生活が実現出来るように取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等の時は、交流があるが日常的な付き合いは出来ていない。	町内行事が少ないので自治会や老人会との交流はないが、清掃活動や神幸祭、お田植え祭りに利用者と職員が参加したり、併設特養との合同の行事に、地域住民や家族、ボランティアに参加して貰い、開設15年目を迎え、地域に根付いた交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりできていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催し家族や地域代表、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの運営や課題、地域の情報等を話し合い、参加者に、認知症やホームの現状を理解してもらい、啓発活動に取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取りあうまでにはいたっていないが定期的には行っている。	運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解し、助言や情報を提供して貰い協力関係を築いている。また、行政担当窓口で「苑だより」を届け、ホームの運営や取り組み、疑問点や課題等を相談しながら情報交換している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で学習し拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会や勉強会の中で、身体拘束や虐待について、職員間で話し合い、禁止行為の具体的な事例を検証し、身体拘束が利用者にとどのような影響を与えるかを、職員一人ひとりが理解し、薬や言葉の拘束も含めた身体拘束をしない介護サービスを目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学習し日々注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等において学ぶ機会を設け学習している。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいないが、研修会の中で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員は重要な制度であることを理解し、利用者や家族が必要とする時には、説明や申請機関へ橋渡し出来る支援体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は家族へ十分な説明と話し合いをし、理解と納得を頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、職員ミーティングにて話し合い改善に取り組んでいる。	職員は、日頃の暮らしの中から利用者の、思いや意向を聴き取り、家族面会や行事参加、電話等で、利用者の希望や健康状態、生活の様子等を報告し、家族からは意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画作成に活かせるように取り組んでいる。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングにて意見、提案と聞いてもらうほか、都度何かあれば、すぐに報告や相談ができています。	毎月定期的に職員会議を開き、職員の意見や要望、アイデア等を話し合い、出来ることから速やかに実行し、職員の意欲に繋げている。また、毎日の申し送り時に、職員の気付きや心配事を話し合い、管理者と相談し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の為、就業環境が厳しい状況であるが労働時間に関しては記録の仕方、工夫などによって以前よりは改善された。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用対象の排除などは特になく、職員の人権は十分に配慮されている。	職員採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人間性を優先し、採用後は、研修会や勉強会に参加し、知識や実践経験を積んでもらい、意欲的に働ける環境を整えている。また、希望休や、勤務体制に柔軟に配慮し、職員一人ひとりの能力や特技に合わせて役割分担し、楽しい職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部、内部研修にて教育を受ける場を設けている。	利用者の人権を守る介護のあり方を研修会で学んだ職員が、伝達研修会の中で報告し、言葉遣いや対応について職員間で話し合い、利用者が居心地よく、自分らしく尊厳を守りながら暮らせる、介護サービスの提供に取り組めるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や内部研修にて学ぶ機会を設けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会などで意見交換の場を設けサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントの時間を確保しよりよい関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分なアセスメントの時間を確保しよりよい関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極め「その時」に合った対応を心がけている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方の立場にはおかず、共に楽しみや悲しみ、喜びをわかち合える家族に近い関係が築けている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン作成時などに、よく話し合い共に支えていく関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	本人や家族などから聞き、把握し支援に努めている。	利用者の希望を聞きながら、馴染みの店や美容院、病院受診に職員が同行し、利用者が長年培ってきた人や場所との関係が、途切れないように支援している。また、利用者の友人や知人が面会に訪れ、居室でゆっくり話ができるように支援し、また来ていただくようお願いしている。	
23		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	関係を把握しスタッフが情報を共有し孤立させる事のないよう関係づくりに努めている。		
24		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	その都度必要があれば、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	可能な限り利用者の思いに、よりそった暮らしづくりに努めている	毎日の暮らしの中で、職員は、利用者の思いや意向把握に努め、職員間で情報を共有している。意思を表現することが困難な利用者には、家族や職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い、表情や仕草から利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	本人や家族等から話を聞き十分に把握できるよう努めている。		
27		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	利用者の行動を注意ぶかく見守り把握するよう努めている。		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	定期的な話し合い、見直しによって現状に即した介護計画になるよう努めている。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、カンファレンスを行い、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成して。また、利用者ごとの重要な項目について、実施状況や目標達成状況の確認を行い、その結果を踏まえて介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録を行ない職員間で常に情報を共有し、介護計画にいかすように努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望に応じた柔軟な対応に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、他機関と連携し協力を得ようとしているが、もっと地域資源との協働をはかりたい。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人及び家族とよく話し合い、希望のかかりつけ医にかかれるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先しかかりつけ医の受診を行っている。提携医医療機関の往診体制が整い、看護師と介護職員が協力し、24時間安心して任せられる医療連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に連携をとり、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に様子を見に行ったり、病院側と常に連携をとり、早期退院に向けて備えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族とよく話し合い共有した上で、医療機関と協力をし対応している。	利用者や家族に、契約時にホームで出来る終末期の支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と常に話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で方針を共有し、ぎりぎりまで、利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えて、連絡や初期対応等、スムーズに行えるよう話し合い取り組んでいる。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと避難訓練を行い、消火器を使い消化訓練を行った。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保は、常日頃より職員間で注意しあい徹底している。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを確保するために、声掛けや対応に注意し、利用者を人生の大先輩として敬愛し、プライドや羞恥心に配慮したケアの実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録は、鍵をかけて書庫で保管し、守秘義務の徹底も行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望をよく聞き可能な限り本人の自己決定を尊重している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の時間以外は、一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いているが、もっと個々の希望にそえる様支援して行きたい。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物で好きな服や物を買ったり毎月の散髪などで本人の意思を取り入れたおしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々のできることをお手伝いして頂いている。毎月のリクエストメニューの日にはリクエストのあったメニューを提供し毎月の外出時はそれぞれの好きな物を食べて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考慮したメニュー作りに取り組み、定期的 に水分補給の時間を設けている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	食後口腔ケアとうがいをを行い、一人ひとりの口腔状 態に応じた歯ブラシを使用し必要時には歯科往診を 受け清潔を保っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し一人ひとりに合ったトイレ 誘導を行っている。	トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の習 慣や排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや誘導 で、利用者の羞恥心に配慮した、トイレでの排泄の支援 に取り組んでいる。また、オムツやりハビリアパンツ、パツ トの使い方を職員全員で学び、オムツ使用の軽減に繋 がれている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便を促すメニューの工夫や必要に応じて服薬に て排便を促している。 毎日のラジオ体操で体を動かす。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を 決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	こちら側で日浴日や時間を決める事が多いが可能 な限り本人希望にそえる様努めている。	入浴は、毎日入ることも可能で、利用者が楽しい入浴に なるように支援し、肩までゆっくり浸かってもらい、職員 と昔話や、利用者の思いや意向を聴き取っている。建 物の構造や水圧の関係で、1か所の浴室で対応してい るので、職員の負担がかからないように配慮して、入浴 の支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	使い慣れた毛布や枕などを使用し安心してゆっくり と休んで頂けるよう居室の環境には気をつけてい る。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、 用法や用量について理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	用法、用量の把握に努め、確実に服薬して頂き、常 に体調の変化に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り支援しているが、職員の人員不足の為、現在は、困難な状況にある。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出等はい、家族の協力も得ながら支援しているが、一人ひとりの希望にもっと添えたらよいと思う。	利用者の重度化が進み、全員での外出は難しいが、グループや個別対応で、外出レクリエーションを毎月実施し、道の駅への買い物や、レストランで外食したり、花見やドライブに出かけ、利用者の生き甲斐に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は持って頂き、できない方は事業所で管理し希望時にはいつでも使えるようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	もう少し自由に電話をかけたり出きるように支援に取り組んでいきたい。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感のある壁飾りを工夫し、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	病院跡の建物を改築した建物を、季節の飾り物を掲げ、家庭的な雰囲気になるように工夫し、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、台所から美味しい料理の匂いがして、利用者と職員と一緒に座り、談笑しながらの楽しい食事が始まっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自由に過ごせるよう留意している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込や本人、家族と相談ししやすい居室作りに努めている。	利用者が自宅で使っていた馴染みの筆筒や机、布団や鏡、電気製品や、生活用品を家族の協力で持ち込み設置し、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して、穏やかに過ごせる居心地の良い居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し生活しやすい空間作りに努めている。		